



お知らせ

News



【文科省AP関連】比治山型アクティブ・ラーニングの構築へ！～ALコア科目群の選定が始まりました

2014年10月29日

本学では、「アクティブ・ラーニング型の授業」がたくさん行われています。大きくは学科単位の取組み、小さくは教員一人ひとりの工夫によって、グループワーク・PBL・フィールドワーク・体験学習など、さまざまなアクティブ・ラーニングが展開されています。詳しくは、本学HPの「[学科ブログ](#)」をぜひご覧ください！

これらの授業や活動については、教員間の授業参観やFD活動などを通して、ある程度の情報共有がされてきましたが、どの学科で、どの教員が、いつ、どんな取組みをしているか、またそれによって学生たちがどんな学びをして、どんな成長をしているか、大学全体にどんな波及効果が期待できるか、といった全体像が今ひとつ不明確でした。

そこをAP事業で改革しようとしています。

AP事業テーマⅠの「比治山型アクティブ・ラーニング（AL）」の構成はつぎのようになります。

ALの目的と目標

<ALの目的>

学生自身が現状を理解（自己理解）し、自己肯定感を醸成することによって、卒業後、社会に積極的に貢献するチカラをつけていく。

<ALによる到達目標>

12のスキルを向上させる。

「12のスキル」とは、建学の精神（悠久不滅の生命の理想に向かって精進する）から導き出される【4つのキーコンピテンシー】を、具体的なチカラ（～ができる）で表したスキル（ルーブリック）です。

【4つのキーコンピテンシー】は、例えば次のような力をイメージしています。

自立：自己肯定感をもって生きる力

想像：自分と異なる価値観への理解と広い視野をもって生きる力

共生：他者と協働して生きる力

創造：新たな価値を生み出す力

コアAL科目群の設定

共通教育科目や各学科専門科目の中で、これらのスキルの育成を旨とする科目群を「コアAL科目」として選定し、体系的に位置づけます。

「比治山型アクティブ・ラーニング」の始発は、初年次教育・専門基礎教育を担う科目です。ここではキーコンピテンシーの基礎となる導入部分「自立：学びの主体者としての自分の実感」を重視し、学生一人ひとりを丁寧に学びに誘います。

「比治山型AL」の特徴の一つはここにあります。

学生の主体的・能動的な学びを促進し、支援する「比治山型アクティブ・ラーニング」。

現在、各学科で、コアAL科目の選定と、その科目によって培われるスキルの確認を進めています。

さらに、学生がこれらのスキルを向上させるごとに、PC画面で花が開くようにするなどの「可視化」(AP事業テーマIIに関連)も、ありかな……と構想が広がっています。



もどる

比治山大学・比治山大学短期大学部 〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

[サイトポリシー](#) | [個人情報保護方針](#) | [サイトマップ](#)

Copyright © HIJYAMA UNIVERSITY. All rights reserved.